

S-03

回復期リハビリテーション病棟におけるNST介入について－BCAA摂取の効果の検証－

周南リハビリテーション病院 リハビリテーション部

小野 一直, 前原 康, 石田 英穂, 徳原 里衣

【はじめに】近年、回復期リハビリテーション病棟（以下、回リハ病棟）では、リハビリによる負荷量が大きくなる傾向にあり、低栄養患者においては筋力が逆に低下してしまう可能性を指摘されている。今回、当院回リハ病棟においてリハ栄養介入前後の比較を行ったのでその結果を報告する。

【対象・方法】平成29年4月から12月に回リハ病棟に入院し、NSTでリハ栄養の介入を行った15名を対象とした。

対象患者には、通常のリハビリを実施した後にBCAAを含む補助食を提供した。また、NST回診時に、提供栄養量やリハビリ負荷量の検討を行った。InBody測定結果、MNA-SF、FIM運動項目について入院時と退院時を比較した。

【結果】体重・BMI・骨格筋量・体脂肪量には有意差はなかった。MNA-SF、FIM運動項目には有意差がみられた。

【考察】本研究では、体重や骨格筋量の明らかな改善は認められなかった。しかし、効果が見られた症例もあったため、今後も介入を継続していく。